

異文化間教育学会 第 44 回大会ご挨拶

この度、異文化間教育学会 第 44 回大会を、2023 年 6 月 10 日（土）・11 日（日）に東京都立大学南大沢キャンパスにおいて開催させていただくことになりました。

1949 年に開学した東京都立大学は 1991 年に目黒区より八王子市南大沢へ移転し、2005 年 4 月には当時の都立四大学「東京都立大学」「東京都立科学技術大学」「東京都立保健科学大学」「東京都立短期大学」を再編・統合して「首都大学東京」として新設されました。2020 年には大学名称を再び「東京都立大学」に変更し、現在、南大沢・日野・荒川キャンパスに学部・大学院生あわせて約 9,000 名が学んでいます。東京都設置による唯一の公立大学として、「大都市における人間社会の理想像を追求すること」を使命とし、大都市東京ならではの都市に立脚した教育研究に取り組んでいます。

会場となる南大沢キャンパスは京王相模原線の南大沢駅からアウトレットパークを抜けて徒歩 5 分、新宿方面・橋本方面いずれからもアクセスできる好立地でございます。東京ドーム 9 個分の面積を有し、緑あふれるキャンパスに多くの皆様をお迎えできますのを、準備委員はじめ一同、心より楽しみにしております。なお、プレセミナーにつきましては、事務局のお力をお借りして、明治大学中野キャンパスにて開催させていただきます。ご協力に心より感謝申し上げます。

本大会は、昨年の第 43 回大会（於立命館大学）に続き、対面での開催の運びとなりました。また、2019 年の第 40 回大会（於明治大学）以来、実に 4 年ぶりに飲食を伴う情報交流会を設定しますので、皆様の交流の場としてぜひご活用ください。

本学の新型コロナ感染防止に関わるガイドラインに従って、安全で実り多い大会となりますよう努めて参りますので、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

皆様方のご参加を楽しみにお待ちしております。

異文化間教育学会 第 44 回大会準備委員会

委員長 岡村 郁子（東京都立大学）

副委員長 金 侖貞（東京都立大学）

岩淵 和祥（東京大学）

ハスゲレル（東京都立大学）

黄美蘭（帝京平成大学）

佐々木リディア（東京都立大学）

We are pleased to announce that the 44th Annual Conference of the Society for Intercultural Education will be held on June 10 and 11, 2023, at the Minami-Osawa Campus of Tokyo Metropolitan University.

Tokyo Metropolitan University, which opened in 1949, moved from Meguro-ku to Minami-

Osawa in Hachioji City in 1991, and was newly established as "SyutoDaigaku-Tokyo" in April 2005 by reorganizing and integrating the then four metropolitan universities. In 2020, the name of the university had changed back to "Tokyo Metropolitan University" and currently has approximately 9,000 undergraduate and graduate students studying at the Minami-Osawa, Hino, and Arakawa campuses. As the only public university established by the Tokyo Metropolitan Government, the university's mission is "to pursue an ideal image of human society in a metropolis," and it is engaged in education and research based on the unique urban environment of the metropolis of Tokyo.

The Minami-Osawa Campus is a 5-minute walk from Minami-Osawa Station on the Keio Sagami Line, passing through the outlet park, and is conveniently located for access from both Shinjuku and Hashimoto areas. With an area equivalent to nine times the size of the Tokyo Dome, the Preparation Committee and all of us look forward to welcoming you to this greenery-filled beautiful campus.

This convention will be held face-to-face, following last year's 43rd convention at Ritsumeikan University. We will also set up an information exchange meeting with food and drink for the first time in four years since the 40th Annual Meeting (at Meiji University) in 2019, so we hope you will take advantage of this opportunity to get to know each other.

We will make every effort to ensure a safe and productive conference in accordance with the University's guidelines for the prevention of new corona infection, and we would appreciate your cooperation in this endeavor.

We look forward to seeing you at the conference.

Conference Organizing Committee

Chair; Ikuko Okamura (Tokyo Metropolitan University)

Yunjeong Kim (Tokyo Metropolitan University)

Kazuaki Iwabuchi(The University of Tokyo)

Gerel Has(Tokyo Metropolitan University)

Meilan Huang(Teikyo Heisei University)

Lidia Sasaki(Tokyo Metropolitan University)

大会参加者へのご案内

大会日程

大会会期：2023年6月10日（土）－6月11日（日）

会 場：東京都立大学南大沢キャンパス 11号館・12号館（6月10日・11日）

※情報交換会：2023年6月10日（土） 17:30-18:30（予定）

会場：東京都立大学南大沢キャンパス 国際交流会館ラウンジ

※プレセミナー：2023年6月9日（金） 13:00-17:00

会場：明治大学中野キャンパス 6階クロスフィールドラウンジ

<プレセミナーと本会場の場所が異なりますので、ご注意ください>

参加資格

会員・非会員を問わず、どなたでもご参加いただけます。

大会参加費および情報交換会費

		事前料金 (5月15日まで)	当日料金
大会参加費	正会員	5,000円	6,000円
	学生会員	3,000円	4,000円
	通信会員	5,000円	6,000円
	非会員（一般）	6,000円	7,000円
	非会員（学生）	4,000円	5,000円
	維持会員	1口1名様無料	7,000円
	名誉会員	ご招待	
情報交換会	正会員 2,500円、学生会員 1,500円（名誉会員はご招待）		

※お払い込みいただいた参加費などは、理由を問わず返却いたしません。予めご了承ください。

情報交換会

6月10日（土）の発表終了後、会場に隣接する国際交流会館ラウンジにおいて、軽食、ドリンクをご用意して情報交換会を開催いたします。3年ぶりの対面での情報交換会となりますので、皆様の交流の機会としてぜひご活用ください。事前申し込みを原則としますが、当日参加も若干の余裕がございます。

- 参加費をお振込みいただく際は、参加者1名につき1枚の払込取扱票をご使用ください。領収書は、当日に受付でお渡しいたします。
- 6月10日（土）、11日（日）の午前9時より受付を行いません。受付にて名札をお受け取りいただき、大会会期中はその名札をご着用ください。
- 特定課題研究、公開シンポジウム、個人発表、共同発表、ケース/パネル発表、ポスターセッションの発表者および司会者の方は「発表者・司会者受付」にお越しください。
- 会場には一般来訪者用の駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

- 宿泊は各自でご手配ください。

大会プラットフォームサイトについて

- 今大会では、初めてプラットフォームサイトを開設いたします。プログラムや発表抄録を参加者限定にて公開いたしますので、ぜひご活用ください。
- 抄録集の紙媒体での配布はございません。ヘルプデスクから参加申し込みの皆様へメールでご案内するリンクより PDF ファイルをご覧いただき、必要に応じて、事前にご自身で PC 等にダウンロードなさってください。大会参加者限定で公開するプラットフォームサイトからご確認いただくこともできます。
- プラットフォームサイトの公開時期は、大会 1 週間前を予定しています。ニュースレターでお知らせしますので、大会ご参加前に必ずご確認くださいませようお願いいたします。

昼食等について

- 会期中、学内の食堂は一般営業しておりません。昼食は南大沢駅近隣やアウトレットモールの飲食店などをご利用いただくか、南大沢駅周辺のお店でご購入ください。
- 学会会場内に昼食会場（11 号館 108 ・ 109 教室）を設けていますが、お茶の準備はございませんので、あしからずご了承ください。屋外をお好みであれば、11 号館中央の池の周りのデッキでも、景色を楽しみながらお召し上がりいただけます。
- 昼食会場・休憩室とも、茶菓の準備はございません。飲み物は 12 号館 1 階ラウンジ（受付）および国際交流会館ラウンジにある自動販売機をご利用ください。

会場での WiFi 接続について

- 会場内では eduroam に接続いただけます。ご利用になる場合は、無線 LAN のネットワーク一覧から SSID（ネットワーク名）「eduroam」に接続してください。ユーザー ID とパスワードの入力画面が表示されたら、以下のご自身のユーザー ID ・ パスワードで認証してください。
ユーザー ID: ご所属機関でご利用中のユーザー ID@所属機関のドメイン名
パスワード: ご所属機関でご利用中のパスワード
- 東京都立大学南大沢キャンパスの 11 号館（101・102・103・108・109・110）、12 号館（101・102・103・104・202・203）では、5G の Wi-Fi をご利用いただけます。各教室にパスワードを掲示しておりますので、どうぞご活用ください。
- 念のため、発表に関わる重要な資料等は、あらかじめ発表時にお使いになるパソコンにダウンロードの上、会場にお越しください。

連絡先

- 大会全般・発表申込・大会当日に関するお問い合わせ

第 44 回大会準備委員会

東京都八王子市南大沢 1 - 1 東京都立大学南大沢キャンパス

国際センター 岡村郁子研究室内

e-mail : ibunka44@gmail.com

- 参加申込み・お支払いに関する連絡先
異文化間教育学会大会ヘルプデスク

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 (株) 国際文献社内
e-mail : iesj-desk@conf.bunken.co.jp
FAX : 03-5227-8632

■ 会員登録に関するお問合せ先

異文間教育学会事務局 会員業務係

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 (株) 国際文献社内
e-mail : iesj-post@bunken.co.jp
FAX : 03-5227-8631

第44回大会日程 (最終確定版)

	6月9日(金) (明治大学中野 キャンパス)	6月10日(土) (東京都立大学南大沢キャンパス)		6月11日(日) (東京都立大学南大沢キャンパス)		
9:00		9:00-受付(12号館エントランスホール)		9:00-受付(12号館エントランスホール)		
9:30		9:30-12:00 特定課題研究 「『移動』から異文化間教育研究を展開 するー象徴的移動に着目してー」		※9:30-10:30 ポスターセッション(在席・説明)		
10:30				10:30-12:10 個人発表、ケース/パネル	※10:30-16:00 ポスター セッション	
12:00		12:00-13:00 昼食	12:00-13:00 ネットワー キング交流 会 「ふらっと交 流サロン」	12:00-13:00 各種委員会 ・学会誌編集委員 会 ・研究委員会 ・将来構想委員会 ・企画委員会 ・グローバル展開 委員会	12:10-13:00 昼食	12:10-13:00 各種委員会 ・ネットワーキング 委員会 ・学会誌編集常任 委員会 ・広報・ICT委員会 ・倫理委員会
12:30	12:30- プレセミナー受 付					
13:00	13:00-17:00 プレセミナー 「オートエスノグ ラフィーで自文化 を描く」	13:00-14:00 総会		13:00-16:00 公開シンポジウム 「外国につながる子どもたちの教育と 明日 ーポーランドにおける移民・難民受け 入れの現状から考えるー」		
14:00		14:00-17:25 個人発表・共同発表				
15:00						
16:00						
17:00						
17:30	17:30-19:30 理事会	17:30-18:30(会場は20時まで可) 情報交換会				
18:30						
19:30						

※ポスターセッションのご発表者は、2日目9:30-10:30に在席してご説明をお願いします。

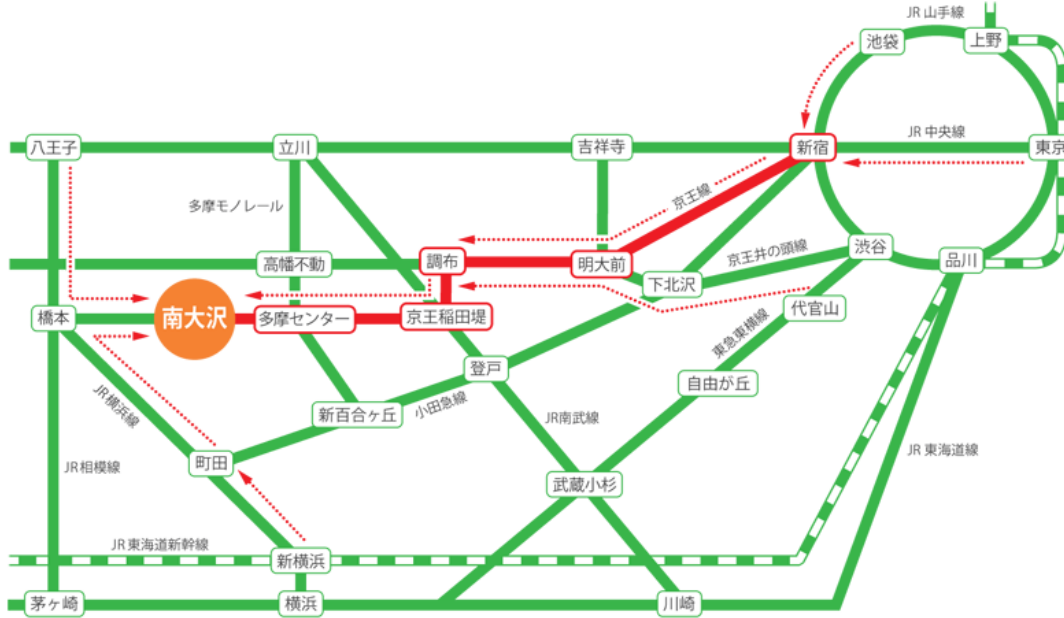
1日目9:30-17:00、2日目10:30-16:00のポスターセッションは、任意の在席となります。

もし2日目9:30-10:30に在席が難しい方は、上記任意の在席時間のうち1時間、必ず在席してください。

【大会会場（6月10日（土）・11日（日）） 東京都立大学南大沢キャンパス

https://www.tmu.ac.jp/campus_guide/access.html

京王相模原線 南大沢駅（新宿方面からお越しの方は、調布から多摩センター方面、京王相模原線に入る電車をご利用ください。府中方面の電車は南大沢へは参りません。）



主要駅から「南大沢」駅までの平均乗車時間

- 新宿から36分
- 渋谷から32分
- 東京から50分
- 横浜から61分
- 八王子から21分
- 吉祥寺から41分
- 池袋から50分

乗り換え時間は含みませんので目安としてご参照ください。

南大沢キャンパス

所在地

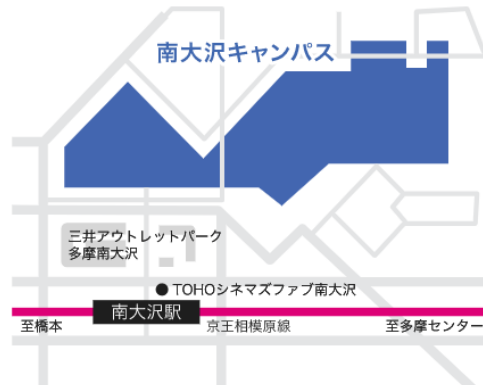
〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1
 Tel 042-677-1111(代表)

所属組織

人文社会学部、法学部、経済経営学部、理学部、都市環境学部、システムデザイン学部、人文科学研究科、法学政治学研究科、経営学研究科、理学研究科、都市環境科学研究科、人間健康科学研究科ヘルスプロモーションサイエンス学域

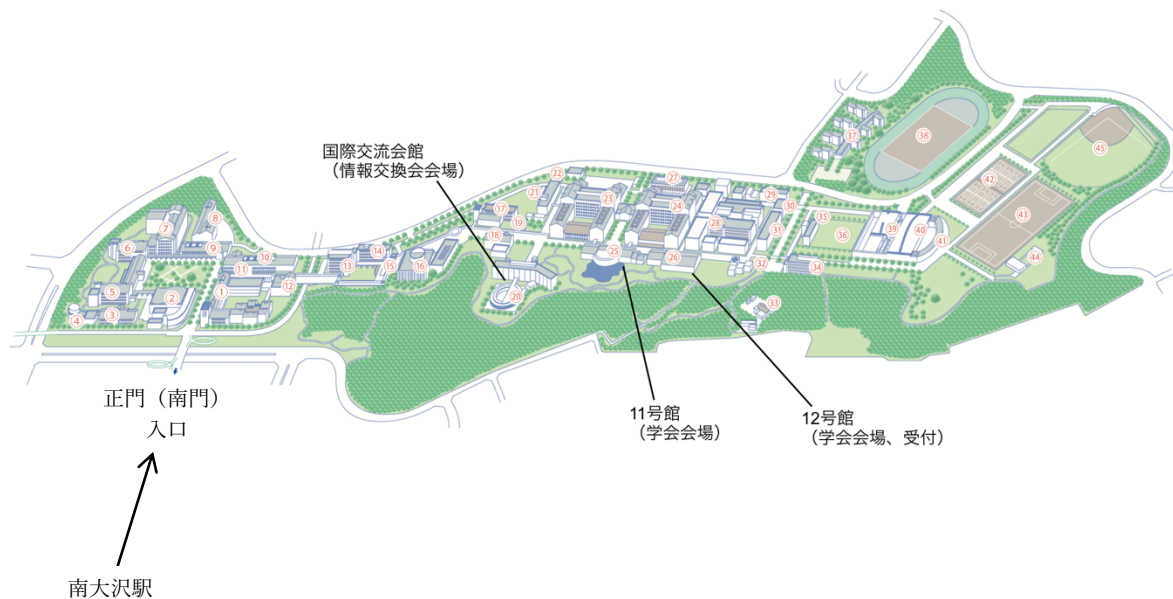
アクセス

- 言葉の地図(言葉による道案内)
- 京王相模原線「南大沢」駅改札口から徒歩約5分
 ※改札口を出て右手に緑に囲まれたキャンパスが見えます。



キャンパスマップ

南大沢キャンパス



駅からキャンパスまでの道順につきまして

1. 南大沢駅の出口は一つで、出ると Frente という商業施設が正面に見え、ひさしのついた道が左右の二方向に分かれてございます。右の道を直進ください（下の写真左参照）。



2. 上の写真右の通り、進行方向先には、都立大学の建物（先の尖った塔）が見えます。その建物に向かって直進します。
3. 突き当たりには階段があり、こちらを上ると都立大学の正門（南門）入り口に到着します（下写真参照）。



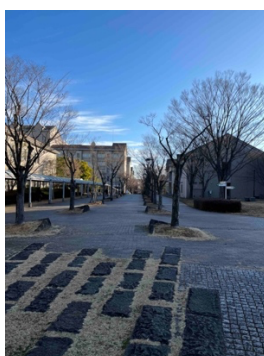
4. 入り口から入ると並木道がございます。そちらを直進すると、右手にアーケードが見えてまいります（下写真参照）。このアーケードを直進します。



5. アーケードの先に、ひさしの着いた道が続いており、ゆるい上り坂となっております。そちらも直進します。その道を上ると、道が二手に分かれており、右のひさしがついている道を道なりに進んでいきます。
6. 途中何度か曲がり道がありますが、分かれ道などはなく一本道ですので、とにかくひさしのついた道を進んでいけば問題ございません。



7. 途中で噴水がございます。その後も道なりに進みます。すると、ゆるい下り坂になっていきます（下写真参照）。



8. そこからさらに進むと、会場となる11号館（下の写真左を参照）に到着します。11号館の隣に12号館があり、1階エントランス部分が受付となっております（下の写真右を参照）。



【プレセミナー会場（6月9日（金）） 明治大学中野キャンパス

https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/nakano/campus.html

【最寄駅からのアクセス】

■JR 中央線快速・総武線／中野駅下車 北口より徒歩約8分

■東京メトロ東西線／中野駅（駅番号：T01）下車 北口より徒歩約8分



▲地図をクリックすると、中野キャンパスのガイドマップをご覧いただけます。

会場案内

大会前日 6月9日(金) (明治大学中野キャンパス)

プレセミナー	13:00-17:00 (受付 12:30-)	6階クロスフィールドラウンジ
理事会	17:30-19:30	同上

大会第1日 6月10日(土) (東京都立大学南大沢キャンパス)

受付	09:00-	12号館1階エントランスホール
ポスターセッション	09:30-17:00	12号館2階展示スペース
特定課題研究	09:30-12:00	11-204
ネットワークング交流会	12:00-13:00	12-202
各種委員会		
学会誌編集委員会	12:00-13:00	12-203
研究委員会	12:00-13:00	12-205
将来構想委員会	12:00-13:00	12-206
企画委員会	12:00-13:00	12-207
グローバル展開委員会	12:00-13:00	12-208
総会	13:00-14:00	12-201
個人発表	14:00-17:25	11-206,11-208, 12-103, 12-104, 12-202, 12-203
共同発表	14:00-17:20	12-101, 12-102
情報交換会	17:30-18:30	国際交流会館ラウンジ

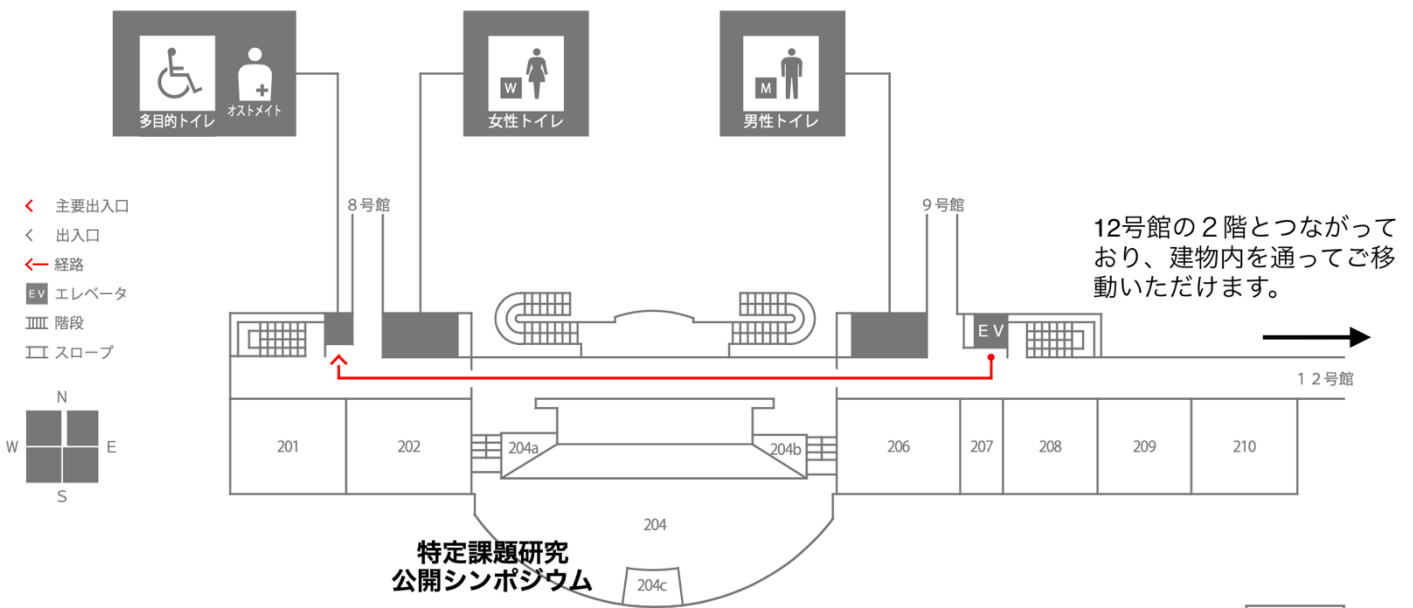
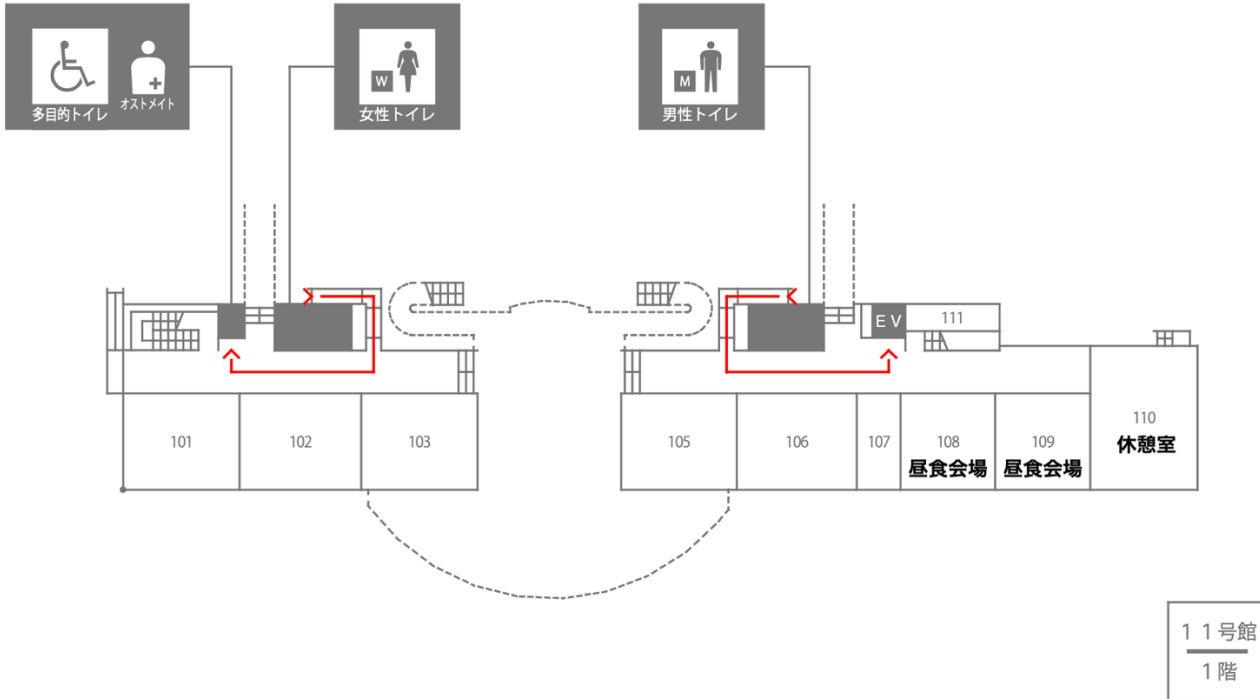
大会第2日 6月11日(日) (東京都立大学南大沢キャンパス)

受付	09:00-	12号館1階エントランスホール
ポスターセッション	09:30-16:00	12号館2階展示スペース
個人発表	10:30-12:10	12-103, 12-104, 12-202, 12-203
ケース/パネル発表	10:30-12:00	12-101, 12-102
各種委員会		
ネットワークング委員会	12:10-13:00	12-202
学会誌編集常任委員会	12:10-13:00	12-205
広報・ICT委員会	12:10-13:00	12-206
倫理委員会	12:10-13:00	12-207
公開シンポジウム	13:00-16:00	11-204

■大会本部・学会本部	09:00-18:30	12-106
■休憩室		12-205, 12-206, 12-207, 12-208 (ただし、委員会開催の時間を除く)
■昼食会場		11-108, 11-109
■書籍展示 10日(土)	09:00-18:30	12号館1階エントランスホール
11日(日)	09:00-16:00	同上

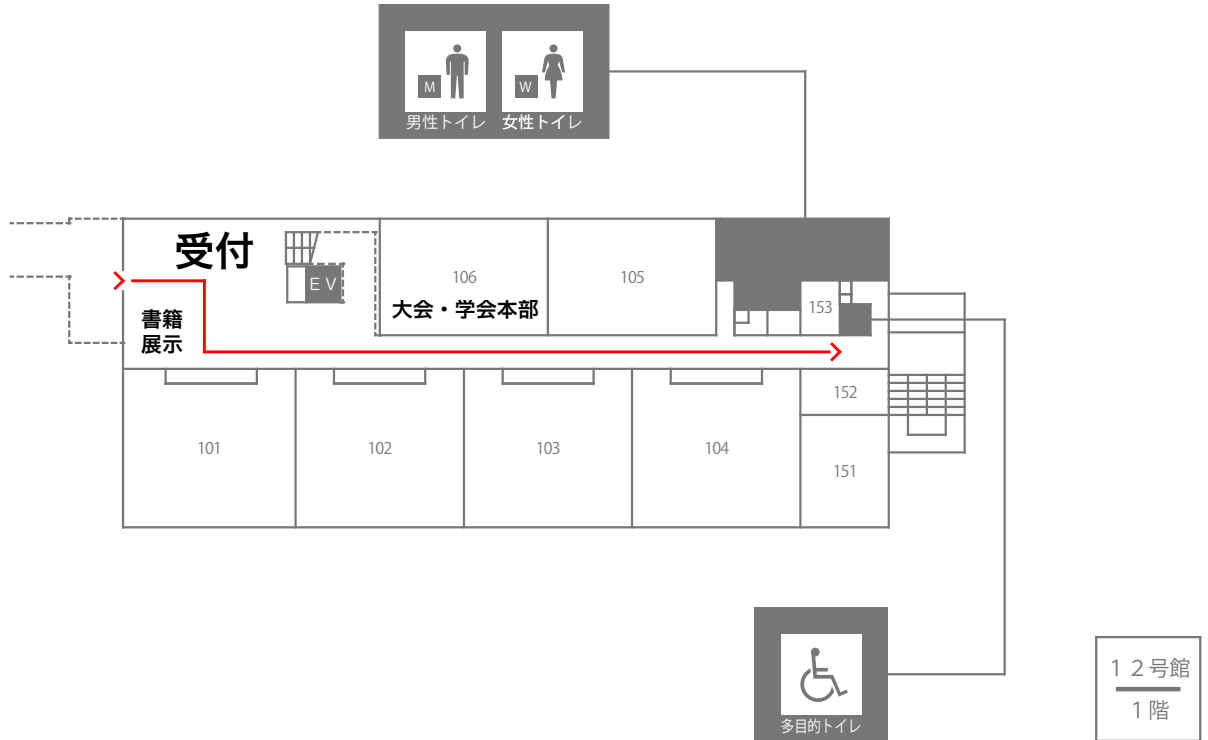
※本大会ではクロークの設置を行いません。荷物の管理は各自でお願いいたします。

11号館の1・2階、12号館の1・2階が会場です。

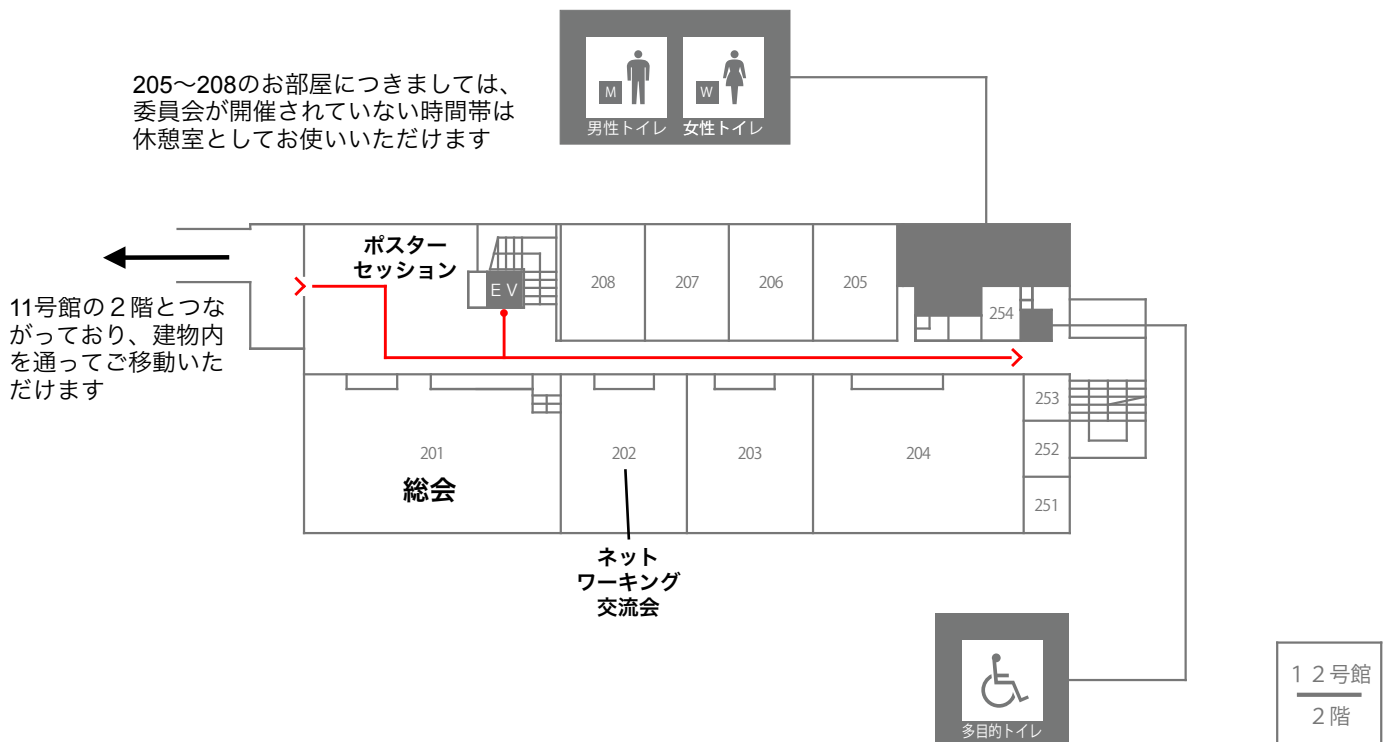


11号館の2階では、個人発表、特定課題研究、公開シンポジウムが開催されます。

12号館の1階に受付がございます。書籍展示も同じスペースにて開催します。
各教室では、個人発表、共同発表、ケース/パネル発表が行われます。



205～208のお部屋につきましては、
委員会が開催されていない時間帯は
休憩室としてお使いいただけます



12号館の2階でポスターセッションを行います。各教室にて、個人発表、
各種委員会、総会、ネットワーキング交流会を開催します。

11号館の2階とつながっており、建物内を
通ってご移動いただけます

プレセミナー

オートエスノグラフィーで自文化を描く

【日時】2023年6月9日（金）13:00～17:00（受付開始 12:30～）

【場所】明治大学中野キャンパス6階 クロスフィールドラウンジ

■企画主旨

本セミナーは、オートエスノグラフィーの理論への理解を深める座学形式と、それを基に実際に自分自身の経験を考察するワークショップ形式で行います。

オートエスノグラフィーとは、端的に言えば、研究者自身やその周囲の人々に対するエスノグラフィーです。オートエスノグラフィーの実践は、他者（＝「異文化」を有する人）と関わりながら発達していく存在としての私をどのように理解するのか、そこに「自文化」がどのように関わっていくのかを深く問い直す契機となります。本セミナーでは、このようなオートエスノグラフィーの価値を強調しつつ、このアプローチを、①研究方法論、②日々の実践のリフレクション、③対話的な教育方法として用いるための基本的な考え方や、留意すべき点、倫理の考え方にも触れていきます。

オートエスノグラフィーには、研究者自身が経験した出来事（auto）を、人びとや文化に対する理解（ethno）に結びつけながら、特定の理論的・方法論的志向のもとで記述する（graphy）という特徴があります。言い換えれば、単に研究者自身の経験を振り返る（reflection）だけでなく、理論や他者の声との対話を通して熟考すること（deliberation）が求められます。ただし、オートエスノグラフィーの実践には「そもそもどう取りかかればいいのか」「自分自身の経験との距離が取れない」「終わりが無いプロセスのように思える」などの困難さも伴います。このような困難さとどのように向き合うのかについても、参加者間の交流や、実際の研究過程を紹介する中で議論を深めていきます。

本セミナーは、「オートエスノグラフィー」「自己」「文化」などについて深く考えてみたいという方であれば、誰でも参加歓迎です。予備知識、専門性、ディシプリン等は問いませんが、普段より少しオープンに（ただし倫理的に）、他者と対話する姿勢で臨んでください。誰もが個人的なナラティブを通して、民主的な関係で対話できるのが、オートエスノグラフィー的な姿勢です。なお、以下の書籍の内容を中心に扱いますので、事前学習をご希望の方はご参照ください。

- ・ Gamsakhurdia, V. L. (2022) A Theory of Proculturation: Development of the self through intercultural communication. Springer.
- ・ 木戸彩恵・サトウタツヤ（編著）（2023）文化心理学 [改訂版]：理論・各論・方法論. ちとせプレス
- ・ 土元哲平（2022）転機におけるキャリア支援のオートエスノグラフィー. ナカニシヤ出版.
- ・ ヤーン・ヴァルシナー（2007/2013）新しい文化心理学の構築：〈心と社会〉の中の文化（サトウタツヤ、監訳）. 新曜社.
- ・ Valsiner, J. (2014). An Invitation to Cultural Psychology. SAGE.

■開催日時

2023年6月9日（金）13:00～17:00（受付開始 12:30～）

※途中休憩や参加者間の交流の時間を含みます。

※参加される方は、ペンや色鉛筆などのお好きな画材をご持参下さい。

■場所

明治大学 中野キャンパス 6階

■講師

土元哲平氏（日本学術振興会・大阪大学）

アシスタント：大川ヘナン氏（大阪大学大学院・日本学術振興会）

■担当者

岸磨貴子（明治大学）

二瓶知子（国際交流基金）

古屋憲章（山梨学院大学）

■参加条件

学会員のみ可

■募集人員

30名程度（定員になり次第、先着順にて締め切らせていただきます。）

■プレセミナー参加費

正会員・通信会員・維持会員 3,500円

学生会員 2,000円

■お申し込み方法

申し込み締切：5月17日（水）

※参加をご希望の方は、大会 HP > 参加／発表申込よりお申込みください。

■申込み問い合わせ先

異文化間教育学会第44回大会ヘルプデスク

e-mail：iesj-desk[at]bunken.co.jp（[at]を @ に変えて下さい）

■プレセミナー問い合わせ先

第 44 回大会準備委員会

e-mail : [ibunka44\[at\]gmail.com](mailto:ibunka44[at]gmail.com) ([at]を @ に変えて下さい)

特定課題研究

「移動」から異文化間教育研究を展開する －象徴的移動に着目して－

研究委員会

【日時】2023年6月10日（土）9：30－12：00

【場所】東京都立大学 南大沢キャンパス 11号館204教室

2023年度の特定課題研究テーマは「『移動』から異文化間教育研究を展開する－象徴的移動に着目して」である。本年度も発表者を公募し、多くの会員から応募をいただいた。本テーマへの貢献や研究方法・内容のバランスなどを念頭に審査を行い、登壇者と指定討論者を選出した。本大会にて会員の皆様と活発な議論をし、今後の更なる展開を共に検討する契機としたい。

【主旨】

異文化間教育学会は設立当初から「移動する人々」の教育問題を探究してきた。それらの多くは、国家間の物理的な移動に関わる海外帰国生、移民二世、留学生などを対象としてきた。一方で、人々が関与する「移動」そのものについては十分に議論されてきたとはいえない。移動する人々の経験を解明するためには、移動それ自体について理解を深める必要がある。社会科学において移動に着目することの重要性が主張されて久しいが（Urry 2007=2015 など）、今一度、本学会が自明視してきた移動概念がもつ説明力を異文化間教育学の文脈において検討することが求められる。

通常、移動という言葉から連想されるのは、地域間や国家間の転地といった物理的な移動であろう。しかし、人々は物理的な移動だけでなく象徴的な移動にも関与している。例えば、社会階層間の移動（社会移動）、人生の道筋・軌跡（ライフコース/ステージの移動）、自分の人生がより良い方向に進んでいる感覚（存在論的移動）、異なる文化・価値観との接触・交渉の過程（異文化間移動）などがあげられる（Hage 2005=2007, 塩原 2017 など）。本特定課題研究で注目するのは、こうした「象徴的移動」である。もちろん、人々が関与する象徴的移動は上記に限られたものではない。また、象徴的移動は単独で経験されるわけではなく、物理的移動を含めた複数の移動が交差し合う中で捉える必要がある。

本特定課題研究では、この象徴的移動を切り口として、異文化間教育研究における移動の多様性と複雑性を捉えるための議論を展開したい。人々が関与する移動のバリエーションやそれらの絡み合いを紐解くことで、複数の文化的状況の間に生きる人々の経験をより豊かに分析・記述したり、かれらに対する教育実践の再構築を促したりすることが可能になるだろう。また、多様な研究者が

移動概念のもつ可能性を議論することで、学問分野間の対話や相互理解が深まり、異文化間教育学における学際性（transdisciplinary）の醸成につながることも期待される。

このような前提を踏まえた上で、本大会では、さまざまな象徴的移動に焦点を当てた3つの発表を起点として議論を深めていく。会員間で象徴的移動に関する議論を重ね、人々の移動に関心を寄せてきた異文化間教育学研究の新たな展開を共に提起していくことを目指す。

※参考文献

Hage, G., 2005, "A Not So Multi-Sited Ethnography of a Not So Imagined Community." *Anthropological Theory* 5 (4), pp.463-475 (=2007,塩原良和訳「存在論的移動のエスノグラフィ：想像でもなく複数地調査でもないディアスポラ研究について」伊豫谷登士翁編『移動から場所を問う：現代移民研究の課題』有信堂公文社, pp.27-49)。

塩原良和, 2017, 『分断と対話の社会学：グローバル社会を生きるための想像力』慶應義塾大学出版会。

Urry, J., 2007, *Mobilities*. Cambridge: Polity Press (=2015, 吉原直樹・伊藤嘉高訳『モビリティーズ：移動の社会学』作品社)。

【趣旨説明】

芝野淳一（中京大学）

【登壇者】

小林元気（鹿児島大学）

塩入すみ（熊本学園大学）

山崎哲（一橋大学大学院）

【指定討論者】

郷司寿朗（長崎大学）

川島裕子（関西大学）

【企画・運営：研究委員会】

小林聡子（千葉大学）

柴山真琴（大妻女子大学）

芝野淳一（中京大学）

青木香代子（茨城大学）

川島裕子（関西大学）

公開シンポジウム

外国につながる子どもたちの教育と明日

ーポーランドにおける移民・難民受け入れの現状から考えるー

【日時】2023年6月11日（日）13:00～16:00

【場所】東京都立大学南大沢キャンパス 11号館204教室

【共催】東京都立大学 国際センター

2022年に始まったロシアとウクライナの紛争に伴い、ポーランドでは多くのウクライナ避難民を受け入れ、2014年のドンバス戦争時からの避難民と併せると300万人以上のウクライナ人が居住しています。教員交換制度を用いて本学に滞在しているブロッツワフ大学（ポーランド）のJustyna Pilarska准教授は、異文化コミュニケーションや異文化学習のための教育資本に関する研究を専門とする傍ら、避難民受け入れの支援活動にも精力的に取り組み、様々な形で心理的なサポート（インフォーマルカウンセリング）を行っています。

他方、難民の受け入れ数が極めて少ない日本では、特例的にウクライナ難民の受け入れを行っているものの、その数は累計で2,000人程度にすぎません。ウクライナ難民の現実に触れる機会もほとんどないのが実情といえるでしょう。

本シンポジウムの第1部では、Pilarska准教授より、ポーランドにおける移民受け入れの実際や子供たちの教育、さらには就労についてのお話を伺います。第2部では日本における外国人児童生徒教育や外国人の就労についての実践・研究に携わっておられる方々をパネリストにお迎えしてディスカッションを行い、ポーランドと日本、双方への示唆を得ることができればと考えました。皆様どうぞふるってご参加くださいませ。

*非会員の一般・学生の皆様のシンポジウムだけのご参加も歓迎いたします（参加費無料）。当日、会場入り口で受付をお願い致します。

【第1部 基調講演（英語）】

「ポーランドにおけるウクライナ避難民受け入れの実際と子どもたちへの教育」

講師：Dr. Justyna Pilarska（ブロッツワフ大学准教授、東京都立大学国際センター交換教員）

*同時通訳はありません。日本語による資料を配布いたします。

【第2部 パネルディスカッション】

<パネリスト（50音順）>

- ・榎井縁会員（大阪大学）
- ・黄美蘭会員（帝京平成大学）

- ・丹野清人教授（東京都立大学人文社会学部）
- ・拝野寿美子会員（神田外語大学）
- ・Justyna Pilarska 准教授（ブロッワフ大学、東京都立大学国際センター）
- <指定討論者> 額賀美紗子会員（東京大学）
- <モデレーター> 綾部真雄教授（東京都立大学人文社会学部、前国際センター長）
- <パネルディスカッション通訳> 佐々木リディア准教授（東京都立大学国際センター）
- <趣旨説明> 岡村郁子会員（東京都立大学）

ネットワーキング交流会

ふらっと交流サロン

ネットワーキング委員会

【日時】2023年6月10日(土) 12:00-13:00

【場所】東京都立大学南大沢キャンパス 12号館202教室

2023年度異文化間教育学会でも、ネットワーキング委員会の企画として、学会参加者の皆様のネットワーキングのための交流会「ふらっと交流サロン」を開催します。関心のあるテーマ(例:研究・実践の進め方、研究・実践テーマ、キャリア、留学・海外調査、その他等)ごとに集まった参加者の皆さん同士で、気軽に話し合い、横のつながりを広げてみませんか。情報共有をしたり、研究・実践につながるネットワーク構築の場になればと考えています。参加にあたってのご準備は不要です。せっかくの機会なので他の大会参加者と気軽に交流してみたいという方、学会大会への参加経験が浅く知り合いが少ない方、この時間帯に予定が空いていて特にすることがない方など、大歓迎です。お時間のある方は、お気軽に、「ふらっと」お立ち寄りください。グループでの交流が3回ありますので、お好きなタイミングでご参加いただけます。ネットワーキング委員が、交流サロン参加者の皆さんに、縦横問わず「フラット」な関係を築くお手伝いをいたします!

注) 新型コロナウイルス感染対策のため、交流サロン中のお食事はお控えください。

ご不便をおかけいたしますが、昼食はイベント前後に各自でお取りいただくようお願い申し上げます。

人数把握のため、交流会参加希望者は以下のリンクから参加登録をお願いします。

(定員に空きがある場合は飛び入りでの参加も可能ですが、原則として、事前登録をお願いします。)

<https://forms.gle/aEnw95BXbwVpZzzJ9>



プログラム：（参加者数によって内容が変更になる可能性があります）

12:00 - 12:05 開会挨拶・趣旨説明

12:05 - 12:20 小グループで交流①

12:20 - 12:25 名刺交換タイム・席移動（任意）

12:25 - 12:40 小グループで交流②

12:40 - 12:45 名刺交換タイム・席移動（任意）

12:45 - 12:55 小グループで交流③

12:55 - 13:00 名刺交換タイム・アンケート記入・閉会挨拶

〈企画・運営（五十音順）〉

異文化間教育学会 ネットワーキング委員会

金南咲季（梶山女学園大学）

新見有紀子（東北大学）

中尾有岐（国際交流基金関西国際センター）

藪田直子（大阪成蹊大学）

由井一成（早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC））

発表について

研究発表は、以下の種別で行なわれます。発表者、題目、時間帯、会場などの詳細は、それぞれの部会のページをご覧ください。

個人発表

共同発表

ケース／パネル発表

ポスターセッション

■ 発表要領

1. 発表時間（交代時間は含みません）

- | | |
|--------------|--------------------|
| A. 個人発表 | 30分（発表20分、質疑応答10分） |
| B. 共同発表 | 60分（発表40分、質疑応答20分） |
| C. ケース／パネル発表 | 90分（発表50分、質疑応答40分） |

*会場での運営は、各グループでお願いいたします。

参加者による質疑応答の時間を確保するようご配慮ください。

- | | |
|--------------|---|
| D. ポスターセッション | 6月10日（土）09:30-17:00、6月11日（日）09:30-16:00 |
|--------------|---|

会場は09:00からご準備いただけます。

*6月11日（日）09:30-10:30の時間帯は必ず在席してください。

6月10日（土）09:30-17:00、6月11日（日）10:30-16:00は任意の在席となります。もし2日目09:30-10:30に在席が難しい方は、上記任意の在席時間のうち1時間、必ず在席してください。

*2日目16:30までにポスターを撤去して下さい。撤去されないポスターは、事務局で処分致します。

*ポスターのサイズは、縦170センチ・横84センチの範囲内でご準備下さい。

2. 配布資料

- 配布資料は紙媒体でも電子媒体でも構いません。紙媒体の場合には1発表につき30部程度ご用意ください。なお、大会準備委員会では印刷をお受けすることはできませんことを予めご了承ください。
- 停電などによりPCが使用できない場合にお備えください。

3. 発表に使用する機器等について

- 発表に用いるPCは発表者が各自でお持ちください。Macの場合はアダプターもご用意ください。各教室にプロジェクターを用意しております。プロジェクターへの接続は、RGB入力- HDMI出力が可能です。ご発表のセッションが始まる前に、各自接続し動作確認等を行って下さい。
- 機材の操作は発表者ご自身で行ってください。
- インターネット接続につきまして、学内WiFi(5G)がご利用になれる会場があります（11号101・102・103・108・109・110、12号館101・102・103・104・202・203）。当日、各教室に掲示する「5Gのご案内」を参照のうえ、各自でご接続ください。また、キャンパス内の全ての無線アクセスポイント設置個所でeduroamの利用が可能です。ご所属の機関で発行されているIDでご利用ください。

4. 発表者欠席の場合

- やむを得ない事情により発表者が欠席する場合には、できるだけ前日までに大会準備委員会宛にメールでご連絡ください。

※第44回大会準備委員会 e-mail: ibunka44@gmail.com

- 発表取りやめがあっても、プログラムの繰り上げはいたしません。

「優秀発表賞」について

異文化間教育学会では、異文化間教育学の発展を期して、会員の研究発表を奨励し、研究発表の向上を図ることを目的として、「優秀発表賞」を設けています。この賞は、若手の研究者を対象とし、当該大会における「個人研究の個人発表」の中から、優秀と評価された発表に与えられるものです。

大会 HP 等でも示しているとおり、優秀発表賞の審査を受けるためには、発表者自身が受賞資格の条件（注）のいずれかに該当することを申告し、審査対象となる意思を表明する必要があります。

審査方法についてはエントリーされた発表ごとに2名の評価者（研究委員会により委嘱）が会場で評価いたします。選考方法については、学会 HP に掲載してある選考手続きおよび規定に基づき、別途、優秀発表賞審査委員会を設置します。その後、本賞は審査委員会による選考が行われ、理事会の承認を得て決定されます。

「優秀発表賞」の実施にあたり、どうぞ大会参加会員各位のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。なお、優秀発表賞の選考方法（選考の手続き、審査対象・審査基準）については学会 HP をご覧ください。

（注）発表者が応募時に以下のいずれかに該当する場合、受賞資格を有するものとする。

- ・大学院修士課程もしくは大学院博士課程に在学中である
- ・修士課程修了後 10 年以内である

（複数の修士課程を修了した場合は、最後に修了した修士課程が対象）

- ・最終学歴が学部卒業の場合は、卒業後 12 年以内である
- ・修了後の期間は、修了・卒業月の末日を修了日として起算する

例えば、大学院修士課程修了者で、3月修了の場合は、3月31日を修了日として、10年後の3月31日までが受賞資格を有する期間とする。

異文化間教育学会
理事長 渋谷真樹

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

個人発表 6月10日(土) 英語による発表

12-103

司会 : Derek MATSUDA (Gunma University)

- 14:00—14:30 Transnational People and their educational strategies
- A case study of Japanese Latin Americans in the U.S. -
Derek Kenji PINILLOS MATSUDA (Gunma University)
- 14:35—15:05 Language Choice in Intercultural Exchange Class at Elementary School Foreign Language Education
Masako SASAKI (Akita University)
- 15:10—15:40 Teaching Japanese How to Speak in ESL for Intercultural Communication
- Student' s Feedback through Participatory Research -
Jun OMI (Tokyo Keizai University)

個人発表 6月10日(土) 英語による発表

12-103

司会 : Yuki WATABE (Tohoku University)

- 15:45—16:15 The Lived Experience of Queer International Students in Japan
- With the Focus on Their Struggles, Problems, and Strategies -
Akira SAWATA (University of Tsukuba)
- 16:20—16:50 Empowerment of Immigrants through Promoting the Acquisition of a Third Language - A Case Study of an English Language School in the Brazilian Community in Japan -
Rafaela Yoshiy Olivares (The University of Tokyo)
- 16:55—17:25 What are the Impacts of Study Abroad Experience in Japan on Human Development?
—The cases of African female students—
Seiko KONDO (Osaka Jyogakuin University, doctoral student)

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

個人発表 「外国人児童生徒」 6月10日(土)

12-104

司会：相磯友子（植草学園短期大学）

14:00—14:30 大学入試「小論文」で求められる「書く力」の実態調査
— 一般入試小論文の見直しを視座に—

荻田朋子（大阪大学大学院）

14:35—15:05 外国人児童生徒への支援と「教育福祉」
— 韓国の外国人密集地域における取組みを通して—

金美連（熊本学園大学）

15:10—15:40 外国につながるのある子どものためのプレスクールの課題と可能性
— F市における実践から—

白頭宏美（慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス）

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

個人発表 「異文化理解」 6月10日(土)

12-202

司会：村田晶子（法政大学）

- 14:00—14:30 オンラインと対面のハイブリッドで進める国際共修授業の可能性と課題
—事例分析を基に—
高橋美能（東北大学）
- 14:35—15:05 英語科教員を目指す学生の異文化理解観
—対話的構築主義に基づくライフストーリーの分析から—
平野遼（立教大学大学院生）
- 15:10—15:40 仮想接触仮説が日本人学生のコミュニケーション能力および外国語不安に与える影
響の検討
胡安琪（茨城大学）

個人発表 「異文化理解」 6月10日(土)

12-202

司会：高橋美能（東北大学）

- 15:45—16:15 事例と実践から見る食を通じた異文化理解
斎藤敬太（跡見学園女子大学）
- 16:20—16:50 在日中国人の対人関係における異文化適応
張氷穎（東京大学大学院）
- 16:55—17:25 「やさしくない日本語」と学生間の交流活動のためのテキスト開発
村田晶子（法政大学）

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

個人発表 「多文化教育」 6月10日(土)

12-203

司会：野山広（国立国語研究所）

14:00—14:30 学校給食は異文化間教育のテーマになりうるか

山ノ内裕子（関西大学）

14:35—15:05 多文化共生へ向けた多文化教育
—外国人集住地域における学校と行政の連携を事例に—

土田千愛（東京大学）

15:10—15:40 国際共修をめぐるディスコースとポジショニング

加藤鈴子（九州工業大学）

個人発表 「多文化教育」 6月10日(土)

12-203

司会：山ノ内裕子（関西大学）

15:45—16:15 移民社会ドイツにおけるインターセクショナルな議論の展開

伊藤亜希子（福岡大学）

16:20—16:50 現代の時代状況に応じたリテラシー調査の方法開発に向けた試行錯誤
—A県B市の自主夜間中学での試行調査結果を踏まえつつ—

野山広（国立国語研究所）

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

個人発表 「日本語教育」 6月10日(土)

11-206

司会：松下恵子（大阪大学・関西大学）

- 14:00—14:30 「ちがいのちがい」のアクティビティから考える多様性と差別・抑圧
—大学における社会正義のための授業実践にむけた課題—
青木香代子（茨城大学）
- 14:35—15:05 日本語母語話者と非母語話者による文化比較をテーマとした協働学習場面における
日本語使用の分析
今泉智子（山形大学）

個人発表 「日本語教育」 6月10日(土)

11-206

司会：青木香代子（茨城大学）

- 15:10—15:40 フィンランド人日本語学習者の学習環境支援ニーズに関する研究
—学習動機・学習困難度との関連から—
猿田静木（広島大学大学院）
- 15:45—16:15 建設系大学院英語プログラムから日本企業へ
—日本で働く外国人技術者の言語資源と移行過程—
柴山俊也（千葉大学大学院 人文公共学府）

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

個人発表 「留学生」 6月10日(土)

11-208

司会：郷司寿朗（長崎大学グローバル連携機構）

- 14:00—14:30 ダブルディグリー・プログラムにおける中国人留学生の留学効果・総合満足度
—困難への対処方略との関連を中心に—
張慧穎（お茶の水女子大学大学院）
- 14:35—15:05 中国人留学生の大学図書館サービス利用状況に関する研究
—筑波大学の大学附属図書館を例として—
高望雲（筑波大学大学院）
- 15:10—15:40 日本のリーディング大学における質の高いEMI コースへの探求
—大学院留学生の学習体験に関するケーススタディ—
闫琬新（東北大学大学院教育学研究科）

個人発表 「留学生」 6月10日(土)

11-208

司会：張慧穎（お茶の水女子大学）

- 15:45—16:15 在日ネパール人留学生と母国の家族 —SNS 普及による意識の変容—
村本茜（鹿児島大学大学院 博士後期課程）
- 16:20—16:50 文化的依存度の高い学びをする在日留学生のインターネット利用の現状とオンサイ
ト留学の意義
工藤昭子（国際武道大学）
- 16:55—17:25 自律性の中の〈揺らぎ〉
元留学生外国人社員の出自文化と支配的文化の間での準拠先の調整と交渉
郷司寿朗（長崎大学グローバル連携機構）

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

個人発表 「コミュニケーション」 6月11日(日)

12-103

司会：小坂貴志（神田外語大学）

- 10:30—11:00 日本に暮らす外国人信徒との共生的信仰生活の構築に関する課題と方略
—宗教的リーダーへのインタビュー調査を踏まえて—
松本美香子（早稲田大学大学院日本語教育研究科博士後期課程）
- 11:05—11:35 客観的測定テスト BEVI を用いた全員留学の評価
—国際・文化体験への関心が低い学生の留学効果—
中村絵里（千葉大学）
- 11:40—12:10 対話型 AI との対話—対話型 AI の現状を知るための予備調査として—
小坂貴志（神田外語大学）

個人発表 「異文化適応」 6月11日(日)

12-104

司会：岸磨貴子（明治大学）

- 10:30—11:00 ヒューマンライブラリーの「司書」に関する一考察
—類似する「東京にしがわ大学」の参加者傾向から—
松本健（株式会社千手ホールディングス 町田支部キャリアサポート課）
- 11:05—11:35 子どもを4ヶ国語で育てる家庭内言語方針
—内モンゴル人親の言語イデオロギー的要因に注目して—
包高娃（東北大学）
- 11:40—12:10 SDGs 教育におけるパフォーマンス・アプローチ
—映像コンテンツを活用した多文化共生の実践を事例として—
岸磨貴子（明治大学）

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

個人発表 「継承語」 6月11日(日)

12-202

司会：谷口ジョイ（静岡理科大学）

10:30—11:00 シンガポール公教育で問われる日本語レベルと多言語環境で育つ子どもたちの言語選択

重松香奈（東京外国語大学 特別研究員）

11:05—11:35 中国にルーツを持つ若者世代の言語意識と言語実践の変容に関する一考察
—日本の高等教育での中国語学習者を対象に—

盤大琳（早稲田人間科学研究科 博士後期課程）

11:40—12:10 継承語としての日本語学習コミュニティにおける教育実践
—ドバイにおける日本語サークルの事例から—

谷口ジョイ（静岡理科大学）

個人発表 「海外帰国児童生徒」 6月11日(日)

12-203

司会：芝野淳一（中京大学）

10:30—11:00 日台国際児の現地理解教育の経験とその意味づけ
——台湾の日本人学校卒業生の語りを通して——

澁谷優子（筑波大学大学院）

11:05—11:35 在外教育施設派遣教員の教育スタイルの分析
—帰国教員アンケートの結果に基づいて—

芝野淳一（中京大学）

個人発表 「マイノリティ」 6月11日(日)

12-203

司会：芝野淳一（中京大学）

11:40—12:10 ダイバーシティ推進のまちづくり—中野区における現場生成型研究の取組—

横田雅弘（明治大学）

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

共同発表 6月10日(土)

12-101

司会：守谷智美（岡山大学）

14:00—15:00 朝鮮学校における「保健室」に関する研究
—設置・運営過程のコンフリクトに着目して—

山脇佳（中京大学大学院）

森本早紀（大阪大学大学院）

15:10—16:10 教育の学習化に向かい合う—セルフスタディを通じた考察

齋藤真宏（旭川市立大学経済学部）

内田千春（東洋大学ライフデザイン学部）

16:20—17:20 学校と学齢の狭間にある移動する子どもたち
—「待機生クラス」という一過的な包摂を維持する実践から—

小林聡子（千葉大学）

相良好美（千葉大学）

中西よる（千葉大学）

共同発表 6月10日(土)

12-102

司会：阿部祐子（国際教養大学）

14:00—15:00 Addressing the Issues of Power and Privilege in an Intercultural Training Course—Exploring the Future of Intercultural Education in Japan—

Hanae TSUKADA (Hitotsubashi University)

Yuki WATABE (Tohoku University)

15:10—16:10 東北3県の連携による地域日本語教育専門人材養成における教育実習の役割
—外国人散在地域の多様性と課題—

嶋ちはる（国際教養大学）

松岡洋子（岩手大学）

今泉智子（山形大学）

内海由美子（山形大学）

仁科浩美（山形大学）

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

ケース／パネル発表 6月11日(日)

12-101

10:30—12:00 移民生徒の教育機会を阻む重層的バリアと変革可能性
—都立高校 30 校におけるインタビュー調査をもとに—

共同発表者, 司会者 額賀美紗子 (東京大学)

共同発表者 金侖貞 (東京都立大学)

共同発表者 高橋史子 (東京大学)

共同発表者 徳永智子 (筑波大学)

共同発表者 三浦綾希子 (中京大学)

共同発表者 角田仁 (東京都立町田高等学校定時制課程)

ケース／パネル発表 6月11日(日)

12-102

10:30—12:00 マルチカルチュラル環境における居場所の多面性についての考察
—トランスナショナル・イバショと文化的アイデンティティー—

共同発表者, 司会者 鈴木一代 (埼玉純真短期大学)

共同発表者 時津倫子 (成城大学)

共同発表者 石橋道子 (広島大学)

ディスカッサント 手塚千鶴子 (元慶應義塾大学)

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

ポスター発表

会場：12号館 2F

6月10日：09：30～17:00

6月11日：10：30～16:00

ポスターセッションのご発表者は、2日目 09:30-10:30 に在席してご説明をお願いします。
1日目 09:30-17:00、2日目 10:30-16:00 のポスターセッションは、任意の在席となります。
もし2日目 09:30-10:30 に在席が難しい方は、上記任意の在席時間のうち1時間、必ず在席してください。

01. 外国人幼児の日本語支援と遊びの発達過程—入り込み支援を通しての考察—

石垣尚子（横浜国立大学大学院生）

02. ある日本企業における外国人社員採用の課題—3年前と現状との変化—

阿部祐子（国際教養大学）

03. 国際共修場面における葛藤の意味—教員のビリーフに着目して—

藤美帆（広島修道大学）

04. 高等専門学校での「年少の留学生」に対する日本語教育—阿南高専における教育の実際と課題—

矢崎満夫（阿南工業高等専門学校）

05. 学級担任と日本語指導担当が共につくる日本語指導

—ベトナムにつながる児童Aへの日本語指導の実践報告—

市川成章（静岡市立小学校教諭）

06. 外国につながる発達障害児のアセスメントと支援

—小学校1年生の特別支援学級に在籍する児童の発達支援—

塘利枝子（同志社女子大学）

07. 日本の職場における文化的アイデンティティの表出過程

—児童期に来日した台湾にルーツを持つ社員の事例—

岡村佳代（聖学院大学）

文吉英（帝京大学）

加賀美常美代（目白大学）

08. 日本人社員の職場における文化的ダイバーシティ風土の認識

—元留学生社員との認識の差異に着目して—

小松翠（東京工業大学）

守谷智美（岡山大学）

加賀美常美代（目白大学）

09. インドのLPF 学校における授業アーカイブを活用した授業研究の受け入れと継承に関する研究

今野貴之（明星大学）

10. 地域日本語教室における外国人参加者の語りが与えるインパクト

—デジタルストーリーテリング（DST）を用いて—

田口香奈恵（東海大学）

山森理恵（明治大学）

11. 日本の研究者が世界で活躍するための知識翻訳戦略

工藤和宏（獨協大学）

12. 異文化間協働を活性化するタスクとは—デジタル・ストーリーテリング活動の事例から—

寺尾綾（横浜国立大学）

半沢千絵美（横浜国立大学）

13. オンライン海外大学連携型サービス・ラーニング協働学習における互惠性：

関係性文化理論からの考察

山下美樹（麗澤大学）

14. 逆カルチャーショックにおける維持モデルの事例的検討

—留学帰国後の困難と支援に関する調査から—

中野祥子（山口大学）

田中共子（岡山大学）

15. 「多文化・多言語な子どもたちとどう学ぶ？学習支援のツールボックス」作成を通して学んだこと

—学校教員とNHK for School 担当者の思い—

藤川純子（四日市市立内部中学校）

16. 教師教育者のコア・リフレクションー外国人児童生徒等教育を担う教師の養成においてー

浜田麻里（京都教育大学）

金田智子（学習院大学）

和泉元千春（奈良教育大学）

齋藤ひろみ（東京学芸大学）

17. 留学生教育交流の現状と課題ー激動の世界の中で考える（その2）ー

有川友子（大阪大学）

18. 留学生は、どのように余暇コミュニティへ定着したのかー広島県にある武道場Zのエスノグラフィーー

渡邊大和（広島市消防局）

19. 地域日本語教室の現状と担当者の抱える課題

市川章子（一橋大学）

20. 自分たちを構成する多様性に気づくー教員養成課程における試みー

中山亜紀子（広島大学人間社会科学研究科）

デラコルダ 川島ティンカ（広島大学人間社会科学研究科）

21. スペインの学校音楽科における異文化間教育導入期の動向

桐原礼（信州大学）

22. CLD 児を対象とした複数年にわたる対話型アセスメント（DLA）が意味するもの

吹原豊（福岡女子大学）

佐々木良造（静岡大学）

助川泰彦（東京国際大学）

23. 「子どもの日本語教育」の実践・研究コミュニティの構築

ー研究会活動のプラットフォーム化からー

齋藤ひろみ（東京学芸大学）

池上摩希子（早稲田大学）

浜田麻里（京都教育大学）

24. 日本語授業で戦争を扱うということー実践授業「戦争が遺したもの」を例にー

萩原秀樹（インターカルト日本語学校）

個人

共同

ケース／パネル

ポスター

25. 教師の体験からみる多文化・多言語環境で育つ子ども (Culturally and Linguistically diverse children : CLD 児) との関わりー困難を感じる場面を手掛かりにー

鈴木ゆみ (関西学院千里国際キャンパス)

26. How do Japanese doctoral students perceive language choices for academic publishing?

Wenjuan Cheng (Hiroshima University)